

# 業務部速報



No. 150

発行 22. 3. 25

JR東労組 業務部

申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022年度賃金引上げ等に関する

## 緊急再申し入れ 第1回交渉②

\* 組合の主な主張の赤字は、中央本部に寄せられた組合員の声です！

今こそベアを出すべきだ！

|  |   |
|--|---|
| JR東日本は鉄道業界で一番の収益の回復を見せているのではないか  | 鉄道業界は様々ある。他社と比べるより、皆さんの奮闘があって赤字幅が縮小している。      |
| コロナ前に戻らないと言っているのに、コロナ前と比較している。出さないための言い訳ではないか  | 状況を客観的に見るための1つだ                               |
| いままで散々黒字の時に満足に出さなかったからこそ、努力に報いるためにも今回は出すべきである／好循環の時に出さないのに業績を理由にするのはおかしい／足元の業績や赤字が理由なら、過去最高益の業績の時に社員へもっと還元すべきだ／何故、足元の業績が好調の時に出さなかったのか。 | 今まで出し渋っていたのではない。これまでも会社として出来る範囲で、最大限の回答としている。 |
| 過去最高益でも突出感を理由に還元しないのは、赤字でも支給水準を維持するためと思っていたが違った。／これまで「もしものために」と言っていたのは嘘か   | 突出感は1つの要素として勘案するものだ                           |
| これまで職場では、好況の時は「もしものために」と言っていた。今出すべきだと要求があるのは受け止めるべきだ。  | 社員の皆さんからのご意見は受け止める。                           |

回答書に3・16福島沖地震の記載がない！

|                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 回答書に福島県沖地震のことが触れていない／すでに決まっていたのか | 社員一丸となった復旧活動についてご尽力について感謝申し上げます。 |
|----------------------------------|----------------------------------|

苦しいときこそ賃上げを行うべき！

組合の主な主張

会社の主な主張

|  |  |
|--|--|
| JR北海道がベア500円の回答を出したことについてどうお考えか。   | 他企業のベースアップについて、会社としてコメントするのは控えたい。当社は厳しい状況の中で最大限の回答をした。 |
| コロナ禍でも休まず安全安定輸送を積み上げてきた社員への報酬感としてはやり方は失敗だ。社員をどのように鼓舞するかの視点が無いのか、ズレている／苦しいときこそ給与が上がるようにしてやる気を引き出したほうが結果として業績を伸ばすのではないのか／会社の事しか考えていない。従業員＝人間を大切しない企業に未来はない／人件費から削減する企業に成長はない／業績悪化、赤字はその通りだが社員が辞めていく状況も含めてベア0は社員軽視だ／社員はロボットではない。社員は人であり感情もあります。もっと社員を大切に。変革2027の「ヒト」に社員は含まれないのか | 今出来る最大限の回答として定期昇給を実施し、その昇給係数は4として、最大限の回答をしている。         |
| 賃上げ以外にも社員を元気にする方法があると回答されていたが、それは間違いだ。生活のため稼ぎに会社に来ている  | 好循環の社員還元は賃金だけではない。出来る限りの事を、社員が安心して働くために実施している          |

ベア0に対する組合員の声を受け止めるべきだ！

|  |   |
|--|---|
| 会社は働きがいの向上や社員、家族の幸福の実現を謳いながら、コロナ禍に奮闘する組合員の努力に全く向き合っていない／人件費以外の固定費に対して大きくメスを入れているのか疑問がある／政府が賃上げを掲げている中、ベア0はどうか  | 様々な要素を勘案して、今回出来る最大限の回答をした。                      |
| 効率化やワークライフバランスを謳っているが、個人の仕事量は増え、生活も苦しく言っていることとやっていることが矛盾／コロナ対応で社員全員が頑張っている／ダイヤ改正で労働強化を実感／施策が変わる変化点を無事推移できたのは組合員・社員のおかげで御礼を言葉だけではなく、ベアで応えるべき／感謝の気持ちは賃金でしか表現できない／この間の労働に対する対価としては、あまりに理解しがたい | 様々な社員からの意見があることは受け止める。定期昇給の実施、昇給係数4と最大限の回答している。 |